

6) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 多様な生きがい感のある環境づくり

目的:生涯を通して、自分に合った社会参加ができ、生きがい感をもてるようになる

指標:生きがい感をもっている人の割合

① 目的

生涯を通して、心豊かに生活するためには、社会（家庭を含む）の中で自分の居場所が認知され、自分の希望や自分にあった活動ができることが重要であると考えます。

② 指標

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のはりや生きがいを持ち続ける人を増やすことを目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。（1つに○）

- 1 大変感じている 2 かなり感じている 3 ある程度感じている
4 あまり感じていない 5 ほとんど感じていない

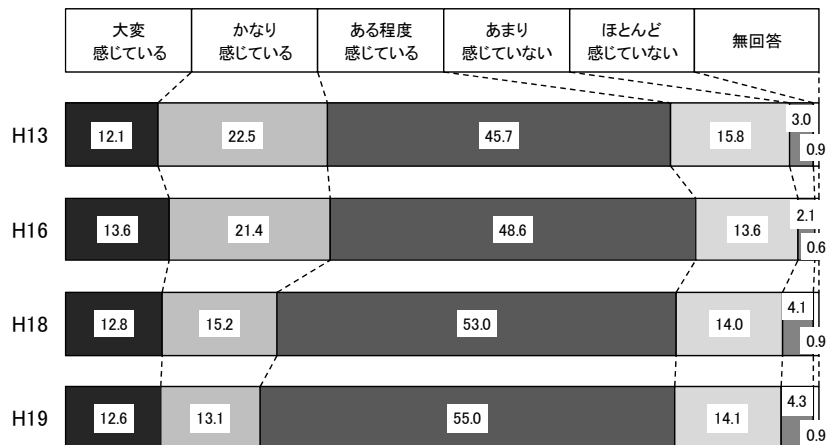
④ 指標の現状（値）

| カテゴリー | H13年度 | H16年度 | H18年度 | H19年度 | H19年度 (目標値) |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 大変感じている | 12.1% | 13.6% | 12.8% | 12.6% | |
| かなり感じている | 22.5% | 21.4% | 15.2% | 13.1% | |
| ある程度感じている | 45.7% | 48.6% | 53.0% | 55.0% | |
| 計 | 80.3% | 83.6% | 81.0% | 80.7% | 80.3% |

⑤ 指標の分析

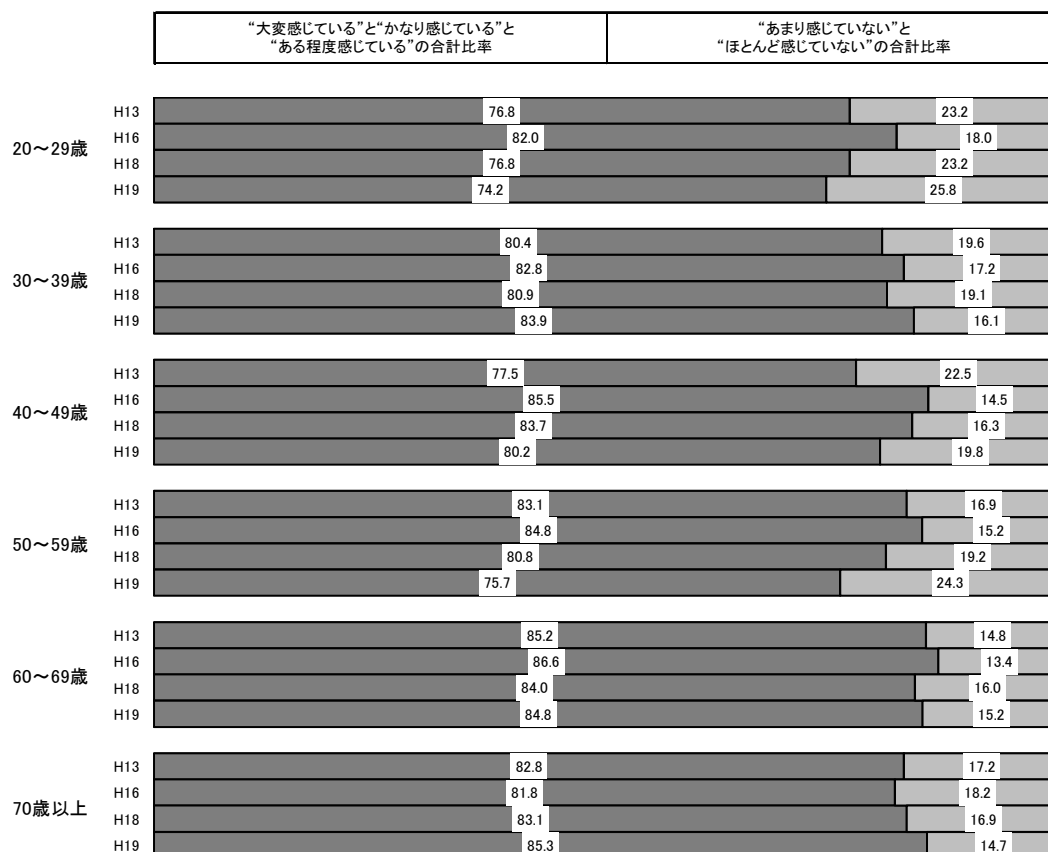
◆ 日頃、生きがいを感じる人は僅かに減少

生きがいを感じている人の割合は、平成18年度値に比べ0.3ポイント減少しているが、平成19年度の目標値は0.4ポイントと僅かながら上回った。内訳をみると、“大変感じている”が0.2ポイント、“かなり感じている”が2.1ポイント減少し、“ある程度感じている”が2.0ポイント増加している。



年齢別では、前回同様、各年代とも生きがい感を持っている人の割合が圧倒的に高く7割以上を占める。前回と比べると、20歳代、40歳代、50歳代で生きがい感を持つ人がやや減少している。

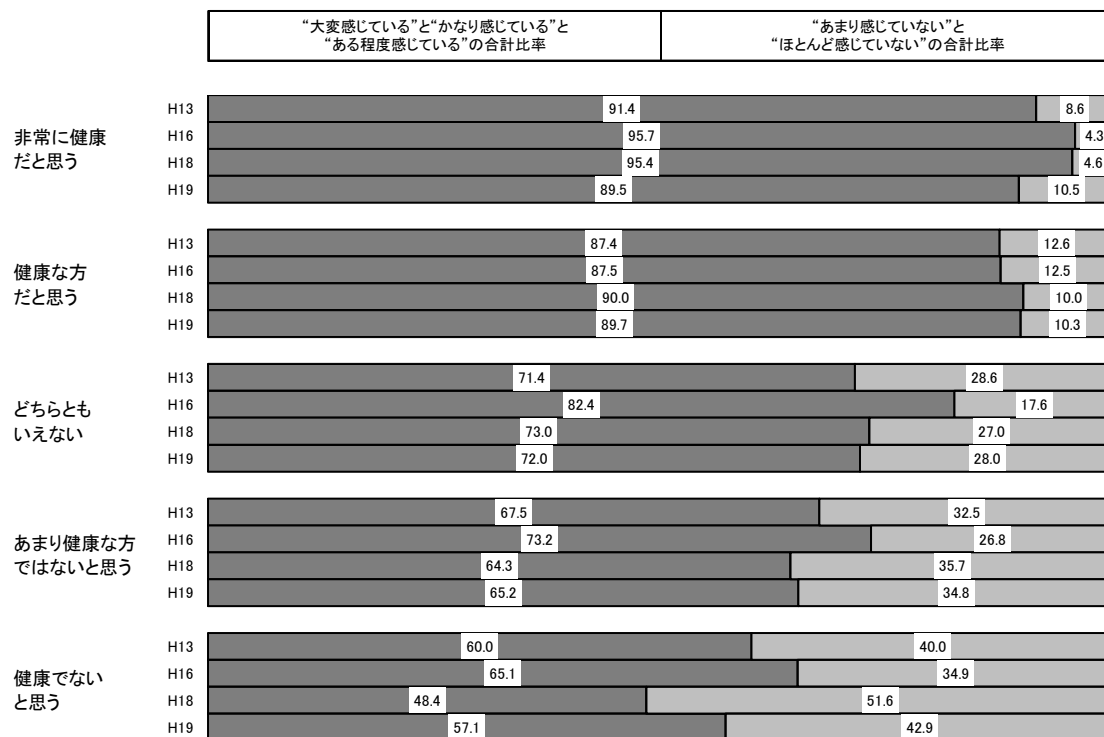
【生きがい感×年齢】



本人の健康感との関係を見ると、健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向は前回と同様である。

しかしながら、健康でないと思う人で、前回から生きがい感が 8.7 ポイントの増加がみられる。そのほかでは、前回と比べて大きな変化は見られない。

【生きがい感×本人の健康感】



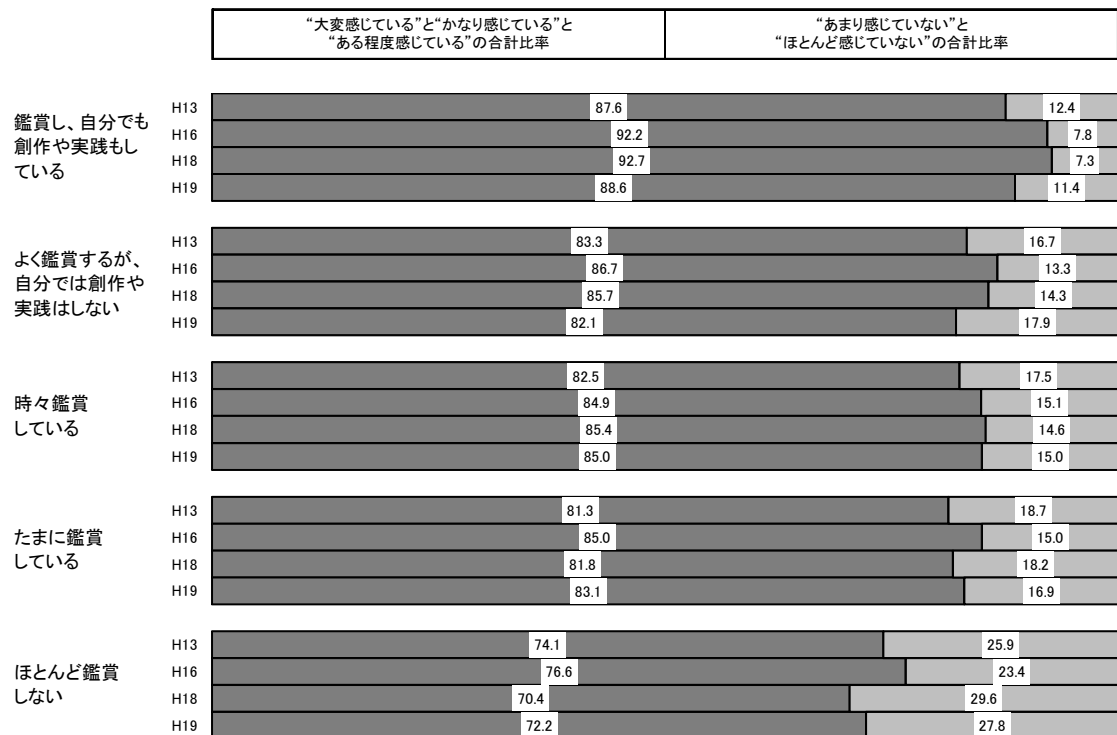
スポーツの実施状況との関係でみると、前回同様継続的にスポーツを行っている人の生きがい感が高くなっている。そのほか、最近スポーツを始めた人で、前回に比べ9.7ポイント増加している。

芸術文化の実施状況との関係では、鑑賞している人の生きがい感が鑑賞しない人に比べると高い割合を示している。

【生きがい感×スポーツの実施状況】



【生きがい感×芸術文化の実施状況】



7) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 健康の維持・増進

目的:生涯を通して、健康に良いと思う行動や身近な人の健康に配慮ができ、病気や障害をもつことになっても、自分に合った健康生活が送れるようになる

指標:本人が健康であると思う人の割合

① 目的

すべての人が生涯を通してその持てる能力を発揮するために、健康はその前提となる重要なものです。自分の健康は自分で守り、つくり、身近な人の健康に配慮をすることが必要であり、本人の意思や努力にもかかわらず病気にかかったり、障害を持たざるを得なくなっても、病気や障害とうまく付き合い、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れるようにすることが大切です。

② 指標

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を増やしていくことを目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・態度（認知）」

あなたは今、健康だと思いますか。（1つに○）

- 1 非常に健康だと思う 2 健康な方だと思う 3 どちらとも言えない
4 あまり健康な方ではないと思う 5 健康でないと思う

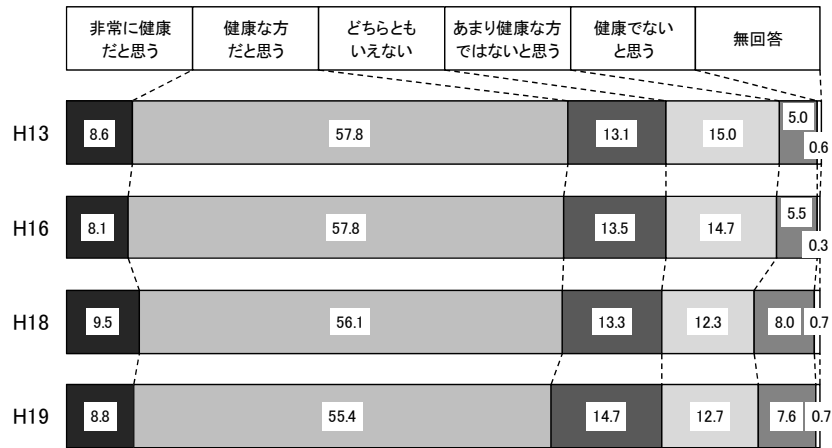
④ 指標の現状（値）

| カテゴリー | H13年度 | H16年度 | H18年度 | H19年度 | H19年度 (目標値) |
|-----------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 非常に健康だと思う | 8.6% | 8.1% | 9.5% | 8.8% | |
| 健康な方だと思う | 57.8% | 57.8% | 56.1% | 55.4% | |
| 計 | 66.4% | 65.9% | 65.7% | 64.2% | 67.1% |

⑤ 指標の分析

◆ 「健康である」と思う人が前回同様多くを占めるが減少傾向を示す

健康であると思う人は市民の約3分の2を占め、前回と大きな差はみられないが、減少傾向を示している。平成19年度目標値を2.9ポイント下回った。



性別で見ると、女性の方が健康だと思う人が僅かに高くなっている。しかし、前回と比べると僅かに減少している。

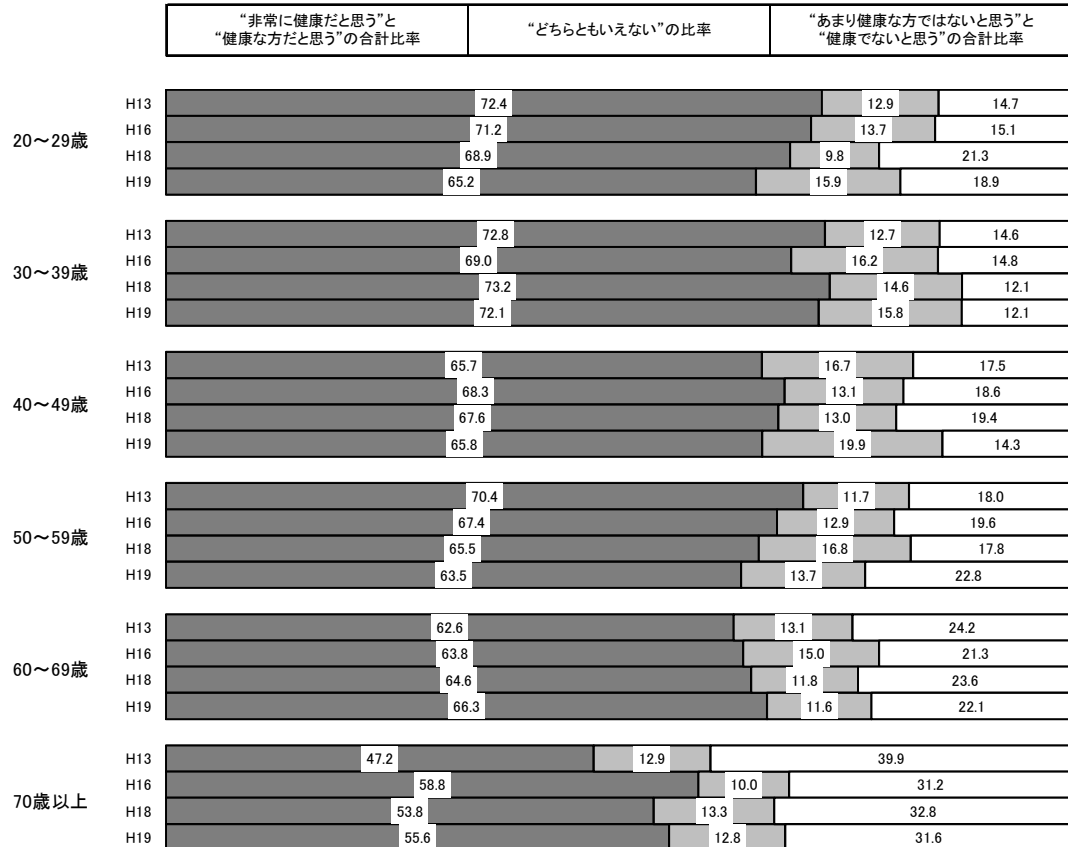
【健康感×性別】

| | “非常に健康だと思う”と “健康な方だと思う”の合計比率 | “どちらともいえない”の比率 | “あまり健康な方ではないと思う”と “健康でないと思う”の合計比率 | |
|----|---------------------------------|----------------|--------------------------------------|------|
| 男性 | H13 | 66.2 | 13.0 | 20.8 |
| | H16 | 63.1 | 14.7 | 22.2 |
| | H18 | 63.0 | 14.3 | 22.7 |
| | H19 | 63.1 | 15.5 | 21.4 |
| 女性 | H13 | 67.0 | 13.3 | 19.6 |
| | H16 | 68.7 | 12.9 | 18.4 |
| | H18 | 68.3 | 13.0 | 18.7 |
| | H19 | 66.4 | 14.4 | 19.2 |

年齢別にみると、70歳を境目として健康であると思う人の割合が減っている。

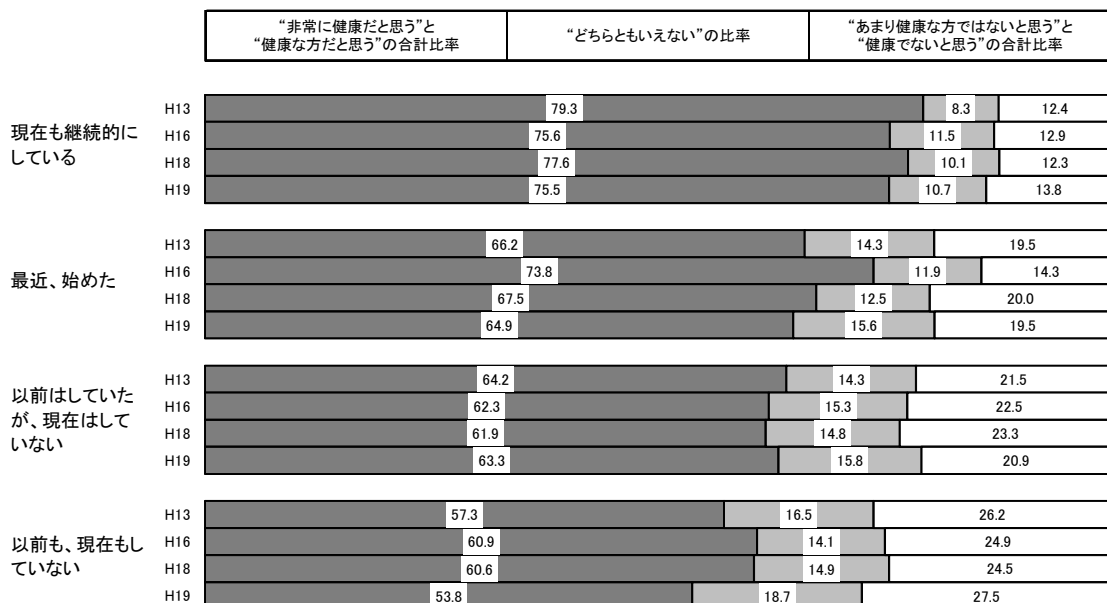
20歳代と50歳代では、健康である人が減少傾向を示しているのに対し、60歳代では増加傾向にある。

【健康感×年齢】



スポーツの実施状況との関係を見ると、前回同様、現在も継続的にスポーツをしているの方が健康であると思う割合が高い傾向となっている。

【健康感×スポーツの実施状況】



8) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 日常生活および緊急時の安全・安心性の向上

目的:生涯を通して、必要な時に必要度に応じて十分な医療、介護、保護、支援などのサービスが受けられ、生活する上での安心感がもてるようになる

指標:日常生活(心配事が起きた時を含む)に対するの安心感をもち人の割合

① 目的

生涯を通してそれぞれのライフステージの中で、急病、事故による受傷、要介護状態(経済的な自立が困難になった場合を含む)、虐待、家庭内暴力への対応など日常生活におけるさまざまな不安や心配事を解消し、安心感を高めることが重要であると考えます。

② 指標

ここ数年の社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット(安全網)を確立し、生活する上での安心感の向上を目指します。

③ 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いている。「個人・態度(認知)」

あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になることがあれば、(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他() | 14 特にない | |

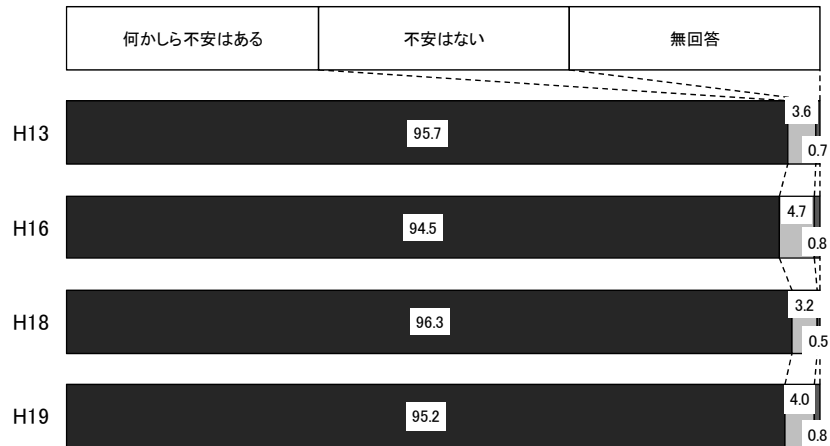
④ 指標の現状(値)

| カテゴリー | H13年度 | H16年度 | H18年度 | H19年度 | H19年度 (目標値) |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 特にない | 3.6% | 4.7% | 3.2% | 4.0% | 4.2% |

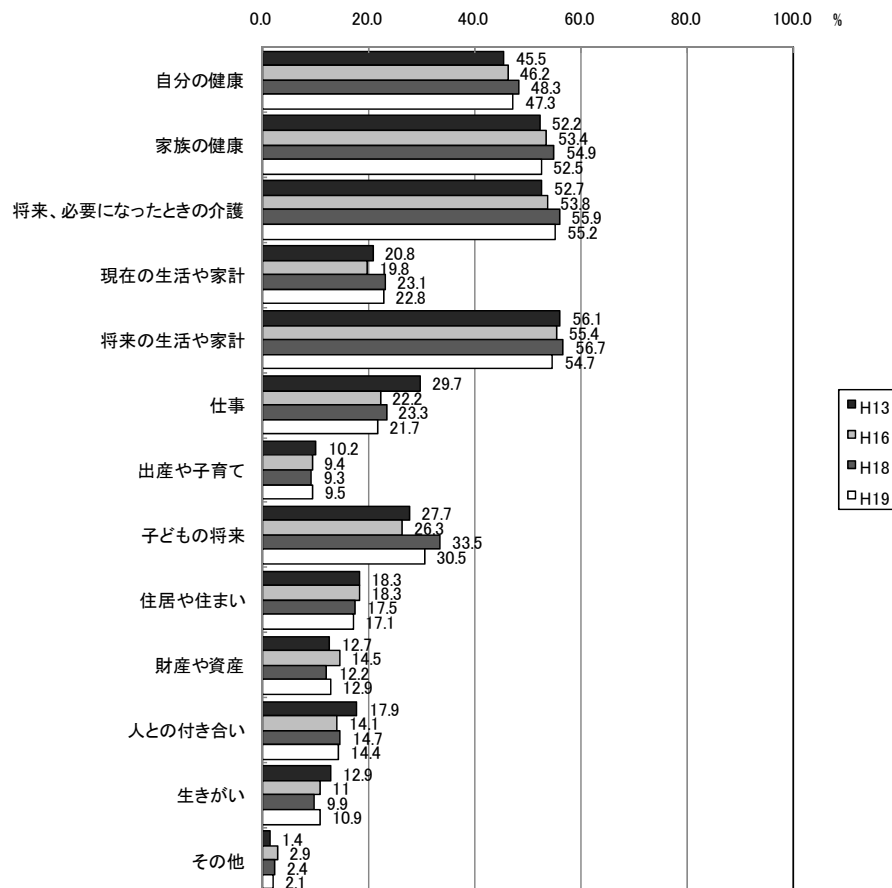
⑤ 指標の分析

◆ 特に不安を感じない人が前回から僅かに増加

日常生活の中で、何かの不安や心配事を感じている人がほとんどであり、前回との差はあまり見られない。一方、不安はないとする人は、ごく僅かに増加しているが、平成19年度目標値を0.2ポイント下回る結果であった。不安感という漠然とした意識の背景には健康や生活・家計、仕事、子どもなど、さまざまな要素がからんでくると考えられる。不安の解消に向け、今後も多様な取り組みの継続が求められる。

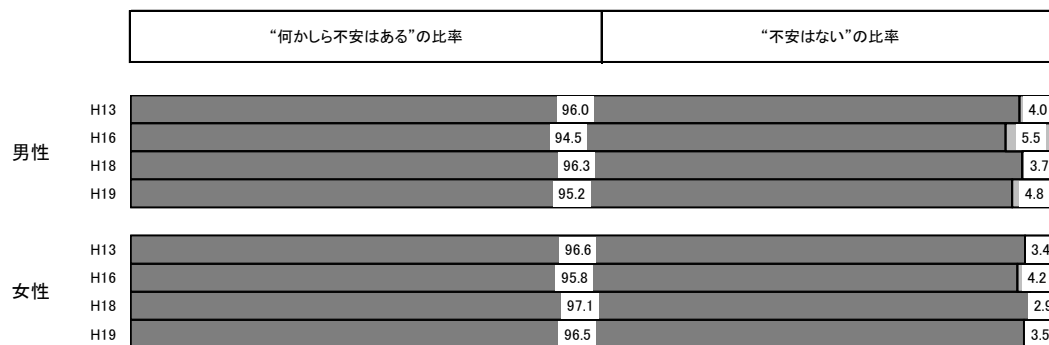


不安や心配事の内容としては、“将来、必要になったときの介護”(55.2%)が最も高く、これに“将来の生活や家計”(54.7%)、“家族の健康”(52.5%)の順で続いている。前回同様、経済的な面も含めた生活全般、健康や福祉の面などが、不安な点の多くを占めていることがわかる。

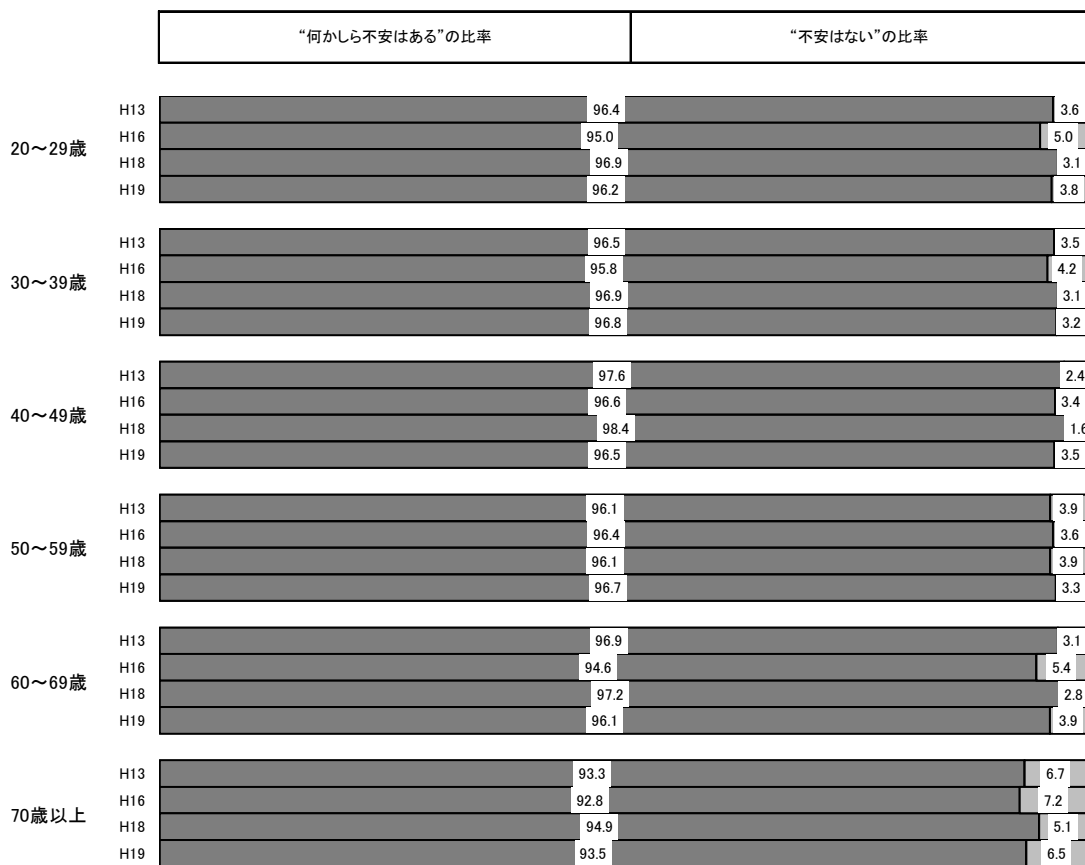


性別や年齢別にみた場合でも、多くの人が何らかの不安を持っている傾向に変わりはなく、前回と比べても同様の傾向となっている。

【安心感×性別】



【安心感×年齢】



9) 第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第4項 福祉のための基盤整備

目的:生涯を通して、必要な時に健康福祉施設サービスが必要度に応じて利用できるようになる

指標:出産や子育てに不安や心配がない人の割合

① 目的

高齢者や障害者を含むすべての市民が、福祉の担い手であると同時に受け手であることを自覚し、相互に支えあい、施設サービスが必要となったとき、必要度に応じた施設利用ができるようにすることが重要と考えます。

② 指標

健康福祉サービスの中では、子育て支援施設の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで子育て支援施設の充足により子育てに満足している人を増やします。

③ 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得している。「個人・態度（認知）」

あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。気になることがあれば、(全てに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------------------|
| 1 自分の健康 | 2 家族の健康 | 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 |
| 4 現在の生活や家計 | 5 将来の生活や家計 | 6 仕事 |
| 7 出産や子育て | 8 子どもの将来 | 9 住居や住まい |
| 10 財産や資産 | 11 人との付き合い | 12 生きがい |
| 13 その他 () | 14 特になし | |

④ 指標の現状(値)

| カテゴリー | H13年度 | H16年度 | H18年度 | H19年度 | H19年度 (目標値) |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 出産や子育てに不安や心配がない | 89.8% | 90.6% | 90.6% | 90.4% | 90.0% |

⑤ 指標の分析

◆ 不安を感じない人が大多数を占める

出産や子育てについて、不安や心配を感じている人は全体の1割弱で、前回と変わらない結果となっている。なお、不安や心配はないとする人は平成19年度目標値を0.4ポイントと僅かに上回る結果となった。

